

## No.100 つれづれ

## 第 65 回関西エスペラント大会公開番組 市口 精一郎 (豊中市)



6月3日午後、大阪大学会館(大阪大学豊中キャンパス)で開催された「関西エスペラント大会」の公開番組に参加した。老人会・ローズ会の近藤福雄さんに誘われたからである。近藤さんの奥さんは昔からのエスペランティストで、当日は会場世話係をされていた。

公開番組は、13時からの「エスペラント入門講座」と14時からの「講演会とコーラス」があり、無料である。私は14時から参加した。この後16時30分から開会式や懇親会があったようだが、16時25分退席。

会場の大阪大学会館は、阪急宝塚線石橋駅から徒歩15分、900m。大阪モノレール柴原駅からも同じく徒歩900m。1928年旧制浪速高等学校の校舎として建設。2004年国の登録有形文化建造物指定。内部は2011年整備。



## 落語家 桂福点さんの講演と落語

演者は、NHK 教育テレビ「バリバラ」などで活躍、多くの講演もこなされる視覚障害者落語家である。1968年生まれ、1986年大阪芸術大学入学、音楽療法を研究。1996年桂福団治に弟子入り、現在落語家としての活動とともに、音楽療法士として診療所等で音楽療法を行っている。

エスペラント語との出会いは、2011年NHKラジオ第2放送「桂福点の銀河鉄道——花巻に宮沢賢治を訪ねて——」に出演した時からである。宮沢賢治も熱心なエスペランティストであったが、花巻の森の中で聴いたエスペラント語の歌は、森とよくマッチし、感動的だったという。

講演中、携帯電話の呼び出し音が前の方で鳴り響いたが、「慌てないで、楽しい曲ですね」と笑いを取るところは、落語家兼音楽療法士の面目躍如たるところである。生後すぐに右目の視力を失い、残る左目もじょじょに弱くなり 15 歳の時完全に失明・全盲となった。それは文字がなくなるということで、点字の勉強がつかなく、興味は漫画さらに音楽に移って行くと、自己の遍歴紹介もあった。

視覚障害者の話を聞いたのは初めてであったが、演者の問いかけに対して聴衆が笑いだけでなく拍手で答えるのを知った。落語の演題は、「落ちない落語」。昨年盲学校の後輩が電車プラットホームから転落して亡くなったことを受け、転落事故防止を訴える創作落語である。笑いもあり、内容の深刻さにもかかわらず、楽しく考えさせる噺(はなし)になっていた。

### 大阪大学合唱団 TEMPEST によるコーラス

TEMPEST は、豊中キャンパスを拠点に活動する大学公認の合唱団である。曲目は、「団歌」・「翼をください」・「フィンランディア」の 3 曲をエスペラント語やフィンランド語で歌われた。

衣装は正装でなく、学生の普段着でばらばらの服装であった。しかし、十分舞台効果を考へての選択らしく、若者のコーラスによくマッチした服装であった。

まったく若さというのはいいものだ。

### 堀泰雄氏の講演「震災支援を通じて知ったエスペラントの無限の力」

講師は、群馬県在住。元世界エスペラント協会理事、元一般財団法人日本エスペラント協会役員。東日本大震災の被災地支援活動をされるとともに、日本の現在を、エスペラント語で世界に発信されている。日本語とエスペラント語の著書多数。

今回の大会テーマは、「地球市民の連帯の言葉エスペラント」である。

講演は「インターネットが世界に通じている今こそ、エスペラントの力が発揮される時である」の言葉で、始められた。昔は外国と文通すると、日本から 1 か月、その返事が 1 か月かかり、文通の意味が薄れるが、今は瞬時に応答できる。

エスペラントの優れたところは、次の 4 つである。

- ①世界に広く一度に伝播すること。
- ②意識の高い人が多いこと。
- ③連絡網があり、名簿が充実していて、世界の人類・文化に通じることができる。
- ④世界雑誌があり、その国の人が自分の国について書くから、情報が正しい。

堀氏は、東日本大震災が原発事故を伴った震災であったことを世界に訴えてきたが、450 頁の本であるのに二人のフランス人がフランス語に翻訳してくれたし、演劇化もされた。エスペラントにより国際貢献できたと自負している。

エスペラントは、趣味から社会変革の道具になってほしいと願っている。

(平成 29 年 6 月 6 日)